

全国豊友会新年度方針案

自主自立 連帯共生 感謝協力

我以外皆我師

高木前会長の思想信条の総結算である「新・経営は人生のお祭りだ。あなたが主役」を参考にしつつ、全会員が指針書、中期三ヵ年経営計画書づくりと作動状況チェックを中心に会が運営されてゆくこととなる。

しかしカリスマであられた前会長の引退で、組織は従来の理念を共有するものの、ひとりと全員が直結する状態からネットワーク型相互扶助組織への変貌を余儀なくされることとなった。各構成員の日常的交流やノウハウ共有は、コンピューター・ネットワークを駆使し、あるいはまた定例会の講師や助言者として相互訪問し、お互い切磋琢磨するものとする。お互いが師となり友となる関係が構築されることが望ましい。地域の豊友会のなかには、会員の減少によって十分な活動をなしえず、積極的な増強政策をとらなければならぬところもある。友人の紹介や、休眠中の会員に対する働きかけ、お誘い例会等で増員を計り、活性化を図ってゆくことが緊急の課題となる。結局、各地域において、会員企業が存在感のあるよい会社となって、隆盛となることが第一義であり、その為の相互応援団、アドバイザー、社外重役としての豊友会、豊かな友の会がある。

また「経営は人なり」と端的に言われるごとく、各社とも幹部教育、社員教育に心をくだいて日夜奮闘してみえる。そこで、新年度の各地域例会の中心課題を、(東海豊友会のように)人材育成にしてゆくことを提案したい。悩み多き問題であるだけに、全員が問題提起者たりうるし、討論や話し合いに参加しやすいテーマではないかと考える。

しかし、上述した如く各地域の豊友会が単独で開催するには参加者不足となったり、メンバーに不足をきたして共催が望ましい課題については、全国豊友会主催として実行してゆく方向をとりたい。前会長のアイデアや皆様の要望により、以前からも催行されてきた「経営指針書チェックの会」「中期三ヵ年チェックの会」あるいは「指針書作成の会」「中期三ヵ年作成の会」はもちろんとしても、「業種別の会」や「自己啓発型給与体系作成の会」等、新規に実行を検討すべき会も、要望に基づいて順次開催されてゆくこととしたい。また、ときには優れた話題の経営者の講演会を開催したり、優良企業を訪問したり、あるいは各地域のメンバーが推薦する講演テープや資料を整理し、共有財産化してライブラリーを構築すること等も考えられる。

新生豊友会は、社員さんの幸せを常に考え、社員さんの能力開発に力を注ぎ、経営理念の実現をめざす企業家集団である。各会員のエネルギーを結集し、スパークするアイデアを基に、挑戦し続ける勇気を持った経営者のための勉強の場となってきている。